

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101826
法人名	医療法人 春光会
事業所名	グループホーム 雁ヶ音
所在地	宮崎市東大宮4丁目20-5 (電話) 0985-61-8525

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 7月 21日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤	12 人
非常勤	1 人
常勤換算	12.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート2階建て 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (72,000円) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200 円				

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	雁ヶ音クリニック 宮路医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の中心地より北部のやや郊外で歴史のある住宅地にホームは立地している。併設して母体の医院とデイサービスがあり連携して運営が行われている。毎月地域住民を招いての医療や介護をテーマとした講演会や近隣住民の協力を得た災害時の連携体制の構築、地域防犯パトロールへの参加等、地域との関連性を重視した運営が行われている。また、組織体制が確立し、管理者を中心にサービスの質の向上に取り組み大きく改善されている。利用者は職員の心のこもった暖かいケアに支えられ表情も明るく元気に暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しや研修機会の増加と報告、行政との連携、異動や離職の抑制等多くの課題に管理者を中心に積極的に取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員会議で話し合い、評価の意義や目的を理解した上で全員で取り組みサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、自治会代表、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や防災訓練の実施についての検討等、具体的な話し合いが行われサービスの向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時にできるだけ声をかけ意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、介護相談員を受け入れ外部に意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月、地域住民を招いて医療や介護をテーマとした「患者塾」の開催や地域のお祭りへの参加、また、職員が地域の防犯パトロールに参加する等地域との交流を積極的に行っている。自治会にも加入している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者が安心して暮らし続けることが出来るよう、地域との関係性を重視した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を全員で唱和して理念の共有に努めている。また、理念を活かした温かいケアが実践されている。		
ikasita					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月、地域住民を招いて医療や介護をテーマとした「患者塾」の開催や地域のお祭りへの参加、また、職員が地域の防犯パトロールに参加する等地域との交流を積極的に行っている。自治会にも加入している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で話し合い、評価の意義や目的を理解した上で、全員で取り組みサービスの向上に活かしている。また、外部評価は管理者を中心に評価結果を具体的に検討し大きく改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会代表、地域包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や防災訓練の実施についての検討等、具体的な話し合いが行われサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には運営の報告や課題等について電話で報告や相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、金銭管理は出納帳を作成し家族に定期的に報告し、ホーム便り(そよかぜだより)も毎月発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、介護相談員を受け入れ外部に意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者を中心にしっかりとした組織体制が出来ており、職員は熱意を持って仕事に取り組み、心のこもったケアが実践されている。この1年間離職者がほとんどなく利用者は安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、法人内外の研修に積極的に参加させている。研修の結果は復命書を作成すると共に全員に報告し共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム相互の見学会やグループホーム連絡協議会の研修会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅を訪問し、利用者の生活環境や習慣、家族の希望等を把握すると共にホームを見学してもらう等、徐々に雰囲気に馴染み、信頼関係が築けるよう家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的なサービスを提供するのではなく、利用者の不安や喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、利用者からは礼儀作法や料理の知恵を学ぶ等信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から利用者のこれまでの暮らし方や習慣等の情報を収集し、また、日々の行動や表情、会話の中から希望や意向を把握出来るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が参加したスタッフ会議で利用者一人ひとりのケアのあり方について充分話し合い、家族の意向や希望を取り入れた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3か月に1回定期的に介護計画の見直しを行っている。また、状況の変化が見られる場合は随時の見直しを行っている。		毎月のモニタリングを活かして、月に1回は、新鮮な目で本人、家族の意向や希望を確認し計画の見直しに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や希望に応じて、母体医院の受診やかかりつけ医の通院、外泊、外出等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、ほとんどが併設の母体医院で受診している。週2回の受診と気軽に相談できる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始の段階で本人や家族、医師、関係者と充分話し合い、方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないよう細心の配慮をしている。また、職員は個人情報保護法の理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向やその日の体調に配慮しながら、出来るだけ自由に自分のペースで暮らせるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや希望に配慮したバランスの良い食事の内容となっている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴が楽しめるように支援している。また、入浴時間も出来るだけ希望にそって入浴できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが有する力の範囲で、ラジオ体操やカラオケ、料理の手伝い、洗濯物たたみ、清掃等楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近くの公園に散歩に出かけたり、商店街での買物、たまには外食やドライブ等、出来るだけ戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム2階の玄関は階段が急なこともあって、危険防止の立場から、受診で職員が少ない時等に施錠している。職員は鍵をかけることの弊害を充分理解しており、家族の了解も受けている。	○	建物の構造上の問題があり厳しい面があるが、職員による見守りの徹底や受診時の職員の配置の工夫等、なんとか鍵を掛けずにすむ方法はないか検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回防災訓練を行っている。また、地域住民の協力を得て、近隣6軒と災害時の連携体制が出来ている。マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理している。管理栄養士の献立による旬の食材を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は全般的に余裕のある造りとなっており、食堂にはテーブルやソファーが置かれ、壁には利用者が作ったはり絵等が飾られ家庭的な雰囲気がある。利用者が居心地よく生活できるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスや鏡台、使い慣れた日用品、家族との思い出の写真等が持ち込まれ、利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう工夫している。		